



仲間へつなげ!
平和のたすき

'05大阪自治労連 駅伝大会

恒例の大阪自治労連駅伝競争大会は、3月5日正午にスタートした。息をきらしながらタスキを5人の仲間につないでいく。1区3.5kmのコースを全員が完走した。レースは昨年に続き吹田市職労「チームオレンジ」が優勝した(詳細は3面)。



和泉市職労 小山 友紀さん

「このコーナーにぴったり。職場になごやかな雰囲気を生みだし、さわやかな風を運んでくれる人」と仲間から評される小山友紀さん。南池田第一保育園で給食調理員として働いている彼女、今年1月に市職労に加入した新組合員だ。

組合も 給食調理も 勉強する(こ)とばかりです

大変だけどやりがいある仕事 もっと良くしたい

クミアイのこと、まだ何にもわかってませんし、(学習会への参加など)何もできていません。この保育所でいっしょになった先輩に誘われて…、と申し訳なさそうに話す小山さん。この仕事に就いて約4年、途中産休で職場を一年ほど離れ昨年9月に職場復帰したばかり。勉強する毎日と言う。「当初考えていたよりもずっと大変な仕事。時間に追われる中、安全面に細心の注意を払い、結構神経を使う。けれど今日はよく食べてもらったなあ、などとみんなで喜べるし作り甲斐がある。楽しいです」。こう実感込めて話す一方、安心でおいしい給食を愛情込めて作るためには、人員を削減したり安上がりだけを目的とした民間委託のようなやり方ではダメ。安全面でも味の面でも人員はもっと必要くらい、余裕があれば本当にいい調理ができ、子どもたちに返していけると強調する。

委託調理から直営調理へ 組合のねばり強い運動で実現

和泉市には市立保育園は17カ所ある。和泉山脈ふもとの広い『山手地域』を抱える和泉市では、山手に所在する小規模保育園の調理業務を委託で

「仕事を離れたオフは？」と聞くと、今は子育て。休日は一日子どもたちとのスキンシップです、と答えてくれた小山さん。「家でも保育所仕込みのおいしい手作りのおやつなど作っあげます。趣味の映画鑑賞はもう少しがまん」と、笑います。

編集一後一記

電車に乗ればマスクをし、すきまが目立つ。顔の型がマスクなどデザインも変化しおしゃれになってきた。例年になく花粉が多い今年、5月の連休明けごろまで花粉症対策にマスクは欠かせない。

スタートしたため、市職労は「安全でおいしい自園給食で、豊かに育て」と直営での給食の大切さを訴え、ねばり強く運動をすすめてきた。こうしたもとの11年前、全

園で市が責任をもつ直営調理へと道を切り開いてきた。調理員は非常勤対応、加えてここ南池田第一保育園など2園では近くの別の小規模園の給食も併せて作るという変則的な経過措置があるものの、どの公立保育園でも手作りのおいしい給食で子どもたちに喜んでもらえる、「市が責任持つ直営」の一步を築いた。「子どもたちにより良い給食を」こう願って、そのために何年もあきらめないでがんばる労働組合の姿は、どんな説明よりも信頼できるものだ。

生きることは食べること チームワークで作るおいしい給食

南池田第一保育園の調理場では、離乳食やアレルギー食など輪番で調理作業を担う。誰もがどの調理も確実にこなせるよう、責任を持ちながら協力し合うチームワークはばっちり。業務が終了するとミーティング。その日の反省と翌日の調理内容を検討し、注意点を確認しあい、安全面や作業の工夫について共通の理解をもつ。ミーティングの内容を書き込んだ献立ファイルは、「私の貴重な資料」と開いて見せてくれた。直営だからこそそんな調理研究が毎日の業務の中に自然と組み込まれ、一人ひとりのスキルアップにつながっている。

「栄養士、非常勤職員を入れて5名で224食を調理します。特にアレルギー食を担当する日は本当に緊張です。大豆がダメ、鶏肉やごまがダメな子も…。万が一間違えると大変なことですし、成分表示とらめっこし、細心の注意を払います」と真剣な目つきになる。「この間自園調理に変わった保育園では、子どもたちはよく食べるようになったと聞きます。この園でもしっかり食べて、伸び伸びと育ていく子どもたちの姿を見てみると、生きる力は食べることですね」と給食の大切さをしっかりとつかんでいる。